第 284 号　2026 年 1 月 20 日発行

森ボラ通信

NPO 法人　北海道森林ボランティア協会
URL　https://www.shinrin-npo.info/
札幌市豊平区平岸 1 条 1 丁目 8-8 ラルズ生活研究センター
TEL.(fax.): (011) 816 - 7010
E-mail: hshinrinv2002@nifty.com

地味で本気の森ボラ活動

横山　清

明けましておめでとうございます。

北海道森林ボランティア協会設立二十四年の本年は、午(うま)年(どし)にあたります。「午」は、太陽が天の頂に達する様子を象徴し、勢いが高まる縁起の良い年とされています。しかし私達を取り巻く環境は、モラルの廃退と拝金主義が蔓延する傾向に加えて、世界中で最先端の機器を使った戦争が絶えません。

円安や物価の高騰、エネルギー価格の上昇なども、高市早苗総理大臣が率いる新政策をもってしても容易ならざる難問題であり、我々国民も更に本気になって取り組まねばなりません。

本気というのは、物事をよく考えたり誰かの役に立ちたいと思うことですが、自分の生き方を幹として、未来に対する社会貢献・利他という発想の中で、新たな種をまこうとする人が、個人にも企業組織にも強く求められております。

私達が携わる森林ボランティア活動は、正しく地味で社会貢献のために本気で取り組んでいますが、時間と資金に加え、熱意のある会員充足が必要条件です。

すでにかなりの実績があるとはいえ、旧倍の本気度を積み上げる覚悟をもって、明るく、楽しく、前向きに邁進しなければなりません。

◆活動納め、活動始め

【活動納め】 12 月 20 日の活動納めでは、各小屋屋根の雪下ろしを行い、全員でＦ地区に向かい札幌市の発注により「やまのかいしゃ」が受託して、新しく作られた作業道を歩くことにしました。当日は天候もよく、歩く路面は材出しのトレーラが通っていたので歩きやすく、澄川南小マイツリー観察地までの往復 2.5 km程をスノーシュー無しで快適に歩きました。途中ではクマゲラの鳴き声と思われるピーピーと甲高い声が聞こえ、小屋前に戻ってからは用意していただいたコーヒーとおやつで、のんびりとくつろぎながら 1 年の思い出を語り合い散会しました。

テント小屋屋根の雪下ろし作業

Ｆ地区作業道の観察

コーヒーとおやつ

【活動始め】 1 月 10 日の活動始めでは、例年恒例の「伐木安全講習」を小屋裏の C-2 区で行いました。対象木は曲がりくねった直径 25 cm程のハリギリです。受け口、追い口と大窪さん、矢野さんの指導で日沼さんがチェンソーを使い、以外の班員の退避場所を確認しました。玉切りでは平さんがホダ木に使いたいと直径 10～20 cm程の部分を 3m 程の長さで山に仮置きしました。どんなキノコが生えて来るか楽しみですねー！期待しましょう！最後に今後の整理伐地区の A-2 区まで雪踏み道を付けて終了しました。

（文・事務局）

伐木の安全注意点の説明

受け口の方向を慎重に判断

伐倒後のツルの状況を確認

◆救急救命講習（2025/12/18）レポ

早いもので、当時森ボラのご意見番的存在だった和田功さんが澄川活動地で斃(たお)れられてから 7 年半となります（2018 年 4 月 4 日逝去）。このことがあり、森ボラでも救急救命の知識を導入せねばならん！と、現代表幹事・橿棒さんの肝煎りで救急救命講習を受講することになりました。その第 1 回目が 2018 年 12 月 12 日のこと。以来、2 年に一回のペースで冬のセミナーとして実施され、今回が 5 回目となります。

これまで 4 回は別の団体に依頼して来ましたが一般向け出張講習を取りやめたため、今回は(株)北海道救急リリーフにバトンタッチをすることになりました。

12 月 18 日、グッと気温が下がる中、いつものエルプラザに 17 名が集合。A・B2 班に分かれて講習がスタートします。一次救命の大切さ、心肺蘇生の手順、止血法、喉詰まりへの対処、AED の操作手順と流れて行きます。仰向けに

倒れた人を横向きにする、喉詰まり対処で背中を叩くなどを 2 人一組になって実際に相手の身体でやってみる体験はこれまでになく、新鮮でした。

さて、こうして習ったことが現場でどのくらいできるのかは謎ですが繰り返し習い、時々は思い返してみることでいざという時に少しでも役に立てるようにありたいものだと思う毎度の講習なのであります。

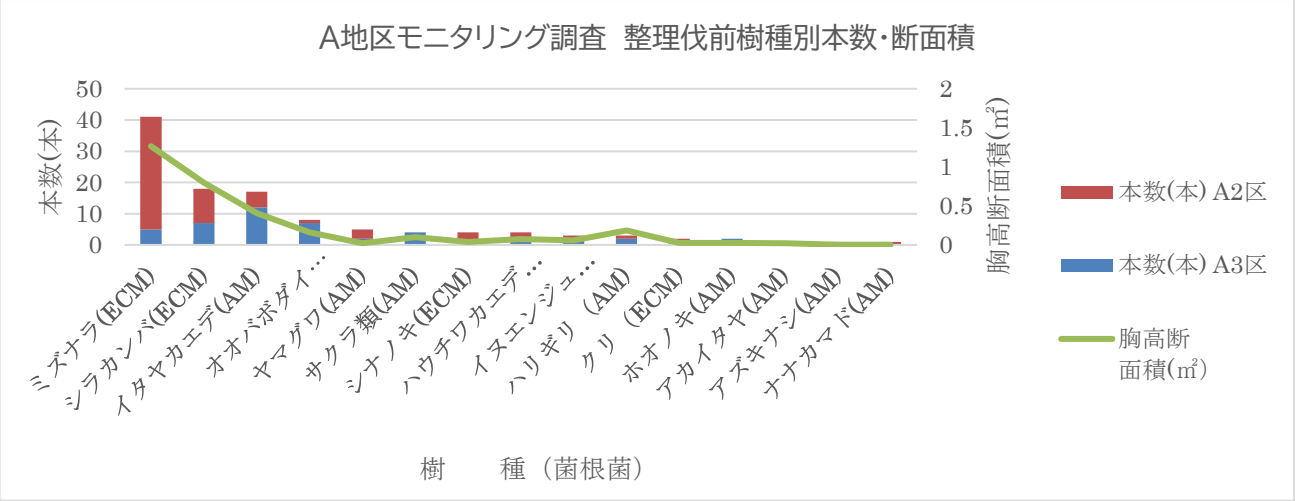
※和田功さんについて気になる方は、ボラ通 2018 年 4 月号に追悼記事が載っています。(文・早坂)

◆澄川環境林の一考察

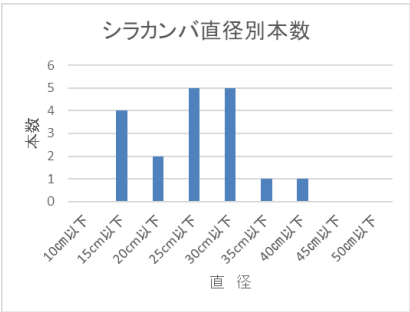
今年度からの澄川環境林における整理伐は。A1～A4、E2 を 3 年間で行う予定です。ここでモニタリング調査として A-2、A-3 区の 2 ヵ所で行い、「自然に倣う広葉樹の森づくり」(2025 年　清和研二著)を参考に若干の考察を行いました。

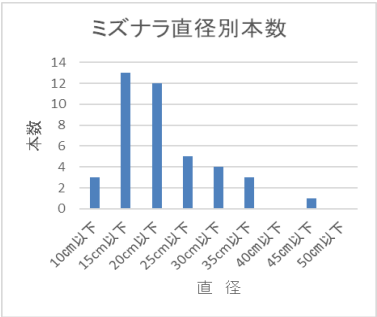
【樹種別】

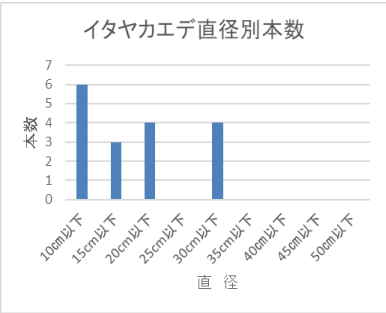
モニタリング調査区は 20m×20m=400 ㎡で、A-2、A-3 区あわせて面積は 800 ㎡となっている。この区域で確認された胸高直径 5cm 以上の樹種本数と胸高断面積を下表に示す。この表から樹種はミズナラ、シラカンバ、イタヤカエデが優先し、クワ、サクラ、シナノキ、ハウチワカエデ、イヌエンジュ、ハリギリ、クリなどが混在する札幌近郊の二次林の典型的な様子がうかがえる。



本数上位の 3 樹種の直径別本数を下のグラフに示す。シラカンバは遷移初期種、ミズナラは遷移中期種そしてイタヤカエデは遷移後期種とそれぞれの特徴を表している。







【菌根菌】

菌根菌は植物から脂肪酸や糖などの光合成由来の炭素化合物をもらい、逆に植物に水分、リン酸や窒素などを供給している。

アーバスキュラ菌根菌(AM 菌)タイプ：草本を含む陸上植物の 70～80%と共生し、宿主植物は多様である。広葉樹ではカエデ類、サクラ類、ホオノキ、アズキナシ、ハルニレ、ハリギリなどがあり、針葉樹ではスギやヒノキが該当する。起源は約 4 億年以上前にさかのぼる、と言われている。

外生菌根菌(ECM 菌)タイプ：AM 菌の共生よりはるかに遅い時期に始まった。マツ科、カバノキ科、ブナ科、ヤナギ科など陸上植物の約 2%としか共生しない。その割には系統的に多様性が高い。マツタケ、テングタケ、ベニタケなどの担子菌類、トリュフなどの子嚢菌といった菌類群である。高い種特異性を持つも

のは少なく、複数の種から属レベルで共生するものが多いといわれている。
【まとめ】
『本来の日本の広葉樹林は、さまざまな樹種が混ざり合う多種共存の森だ。時に針葉樹とも混ざり合う巨木の森だった。広葉樹の森づくりでは全層間伐と天然更新で地域固有の多様性をもつ巨木の森をめざす。樹木の寿命に合わせ、数百年にわたり利用しながら年々大径化していく木々は、幾世代にもわたり山里の人々の暮らしを支えていくだろう。』「上述参考書の裏表紙から」
今後の整理伐ではミズナラ、シラカンバ、シナノキなどの ECM 菌タイプの樹木は群れることが多いので、強めに伐採しても良いと思う。それに対しカエデ類、サクラ、ニレ類など AM 菌タイプの樹木は単独で成立し、周囲に仲間がいない場合が多いので、整理伐や間伐の対象には注意が必要と考える。今後も澄川の森を注意深く観察して活動を継続し「多様な生き物を育む巨木の森」を次世代に繋いでいきたい、と切に思う。(文・橿棒)

A-2 区モニタリング地状況

A-3 区モニタリング地状況

■今月の幹事会

出席者(1/14):老田、大窪、荻田、橿棒、加藤、平、西野(澄)、早坂、松藤、丸尾、矢野

1. 2026 年 2 月、3 月活動ｽｹｼﾞｭｰﾙ(2 月幹事会 2/11 水)):了承
2. 2025 年度 12 月会計報告:了承
3. 2025 年度 12 月多面活動報告:1 月中旬で終了予定。了承
4. 親子森林教室の進め方:了承
5. 現場報告　・整理伐状況:了承　・樹名板位置図:2 月会員例会までに修正、追加を行う。
6. その他
   - ・森ボラホームページ進捗報告:12 月の訪問数 2,026 件。了承
   - ・リーダーおよび活動決定プロセスの見直し:3 月例会に向けて整理。出来るところから手を付ける。
   - ・多面説明会:1 月 27 日、大窪、矢野参加予定。

■活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
12 月 16 日(火)	澄川	12	A1, 2 整理伐
12 月 18 日(木)	札幌ｴﾙﾌﾟﾗｻﾞ 2F 環境研修室	17	第 1 回冬季セミナー「応急手当講習」
	ﾎﾃﾙﾎﾟｰﾙｽﾀｰ札幌	20	忘年会
12 月 20 日(土)	澄川	22	〈活動納め〉、除雪、F 地区作業道確認)
1 月 10 日(土)	澄川	15	〈活動始め〉、伐木安全講習、A2 雪踏み道付け
1 月 13 日(火)	澄川	9	A1, E2 整理伐
1 月 14 日(水)	ラルズビル地下 1 階	11	幹事会